

ギヒッヒッ

ソム[☆]の 淫獣

復讐の女退魔師 01 絶望のその先に...

このカスが！

なにも出来やしないくせに
イキがつてんじゃないよ



人間のぶんさいで
我等に齒向かうから
痛い目みるのよ

さあとうとう
可愛い触手達に
喰われちまいな

フツッどう？
これで分かったかしら

あつ…あああ
そんな!?

お前ら人間は
我ら魔族の
大切な家畜

まつ…マサルさんが
なんなのよ…これ

だから
お次は…



あら

変態のあととは
化け物呼ばわり

失礼しちゃうわね

こう見えても
ちよと前までは
人間やつてたのよ

あああつ
誰か!

誰か
助けてえ!!

ククッ だからあ
無駄だつて
言ってるでしょ

お馬鹿ちゃんねえ

これでね

心配しなくても
可愛がつてあげるから

ほおら 見てえ
どうよこれ

素敵な
チンポでしょう

私の愛しいご主人
ガロン様に頂いたのよお

今からこれで
あなたのマンコを
穿り回して上げる

気持ちいいわよ

でも

その前に

エ
ゲ
ツ

ディ
エヴァ
ゲヤツズ

ギツヒツヒツヒツ！



クククツ どうかしら
これが私
——
ゲート 闇門の門番ガロンヌ
の本当の姿

全ては我らが王都ソドムと
永遠の主ガロン様のために





あ……はっ……
はっ……やめ……

食べちゃいたい
ぐらいに

ウフフフツ やつぱり
可愛いわねえ あなた



この目を見たらすぐに楽になるから

心配しなくても大丈夫よ



はっ

アッ...

はっ

イッ...

クミクミ
いこぞよ

頭の中に淫らなホルモンが
とんとん溢れてくる感じ

はっ

さあ
いらっや

はあ...

はあい

おまえも
アレのことしか
頭がない色情に
変えてあげる



グフフツ
いい子ちゃんね

なら遠慮なく
えんりよ
いただきますわ



存分に愉しんで
墮ちるがいい

あハアアア!!

ああ

ドドド

ドド

ド

はうろう

ドド

気持ち悪いの...

おしゅー

ずっ

気持ちいい

ド





ククツ いい反応ね
それでいいのよ

あの男のように
死にたくなければ
この快楽を心の底から
受け入れるのだ



さあもつと
痴れ狂え！

そうすれば
お前の心にも
闇が開く

そして人間などという
下らぬしがらみから
解放され素晴らしい
未来を手に入れるのだ

この私の様に！

はアあッ！
気持ちいいッ

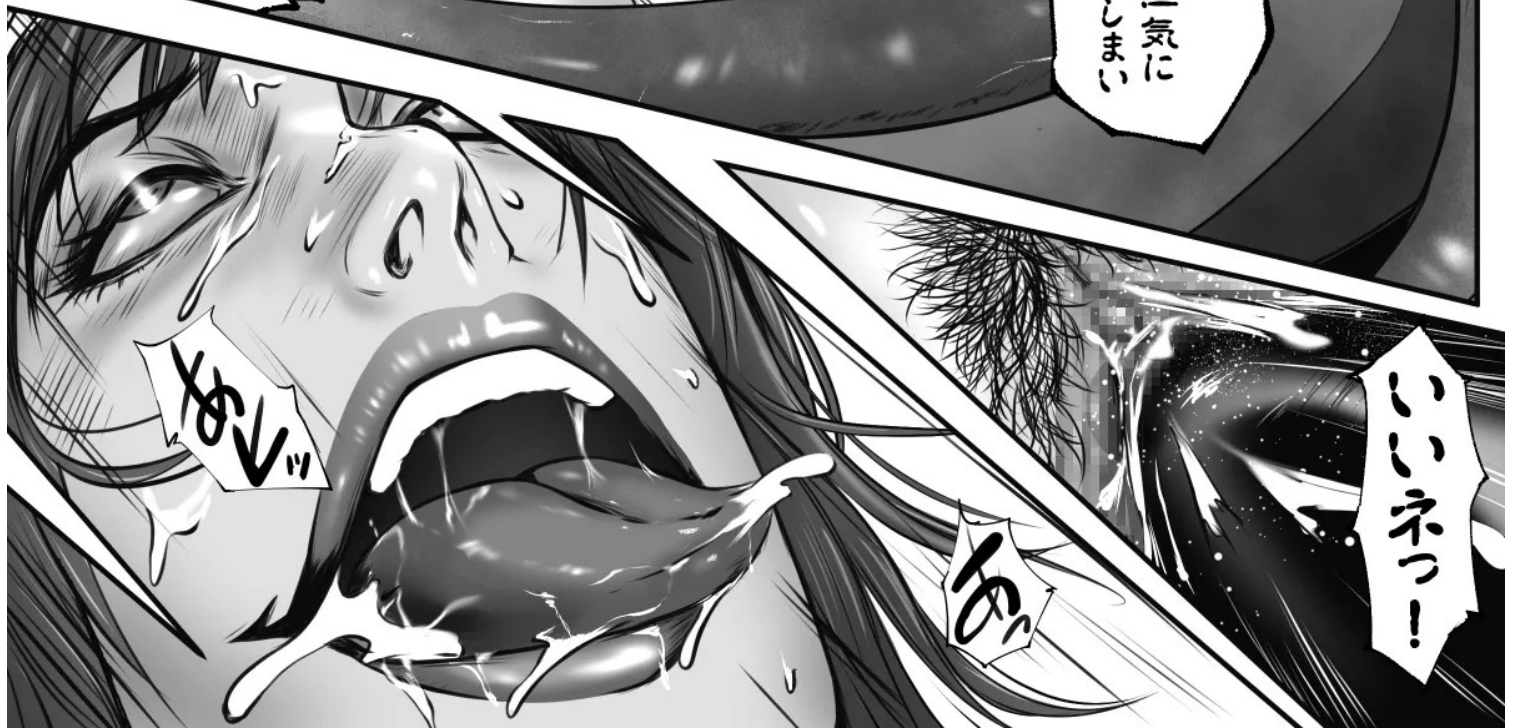


そうだろう
イイだろう

さあ
そのまま一気に
堕ちておしまい

クツクツクツ
お前はもう私のものだ

心の底から
このガロンヌ様に
服従と忠誠を誓い
忠実な下僕となつて
生きるのだ



いいネっ！

あ

やゝゝゝ



便利なモノ
持つてるのね

初手で仕留める
つもりだったのに
残念だわ



クツキツキツ
やつとおでましね

待つてたわよ

だから何？

それにしても
後ろから
襲つてくるなんて

正義の味方にしては
なかなか卑怯な手
使うじゃない

妖魔相手に
卑怯も何もあるものか

私は
どんな手を使つても
お前達さえ討てれば
それでいい

神咲彩乃





もらった!



カ
ン

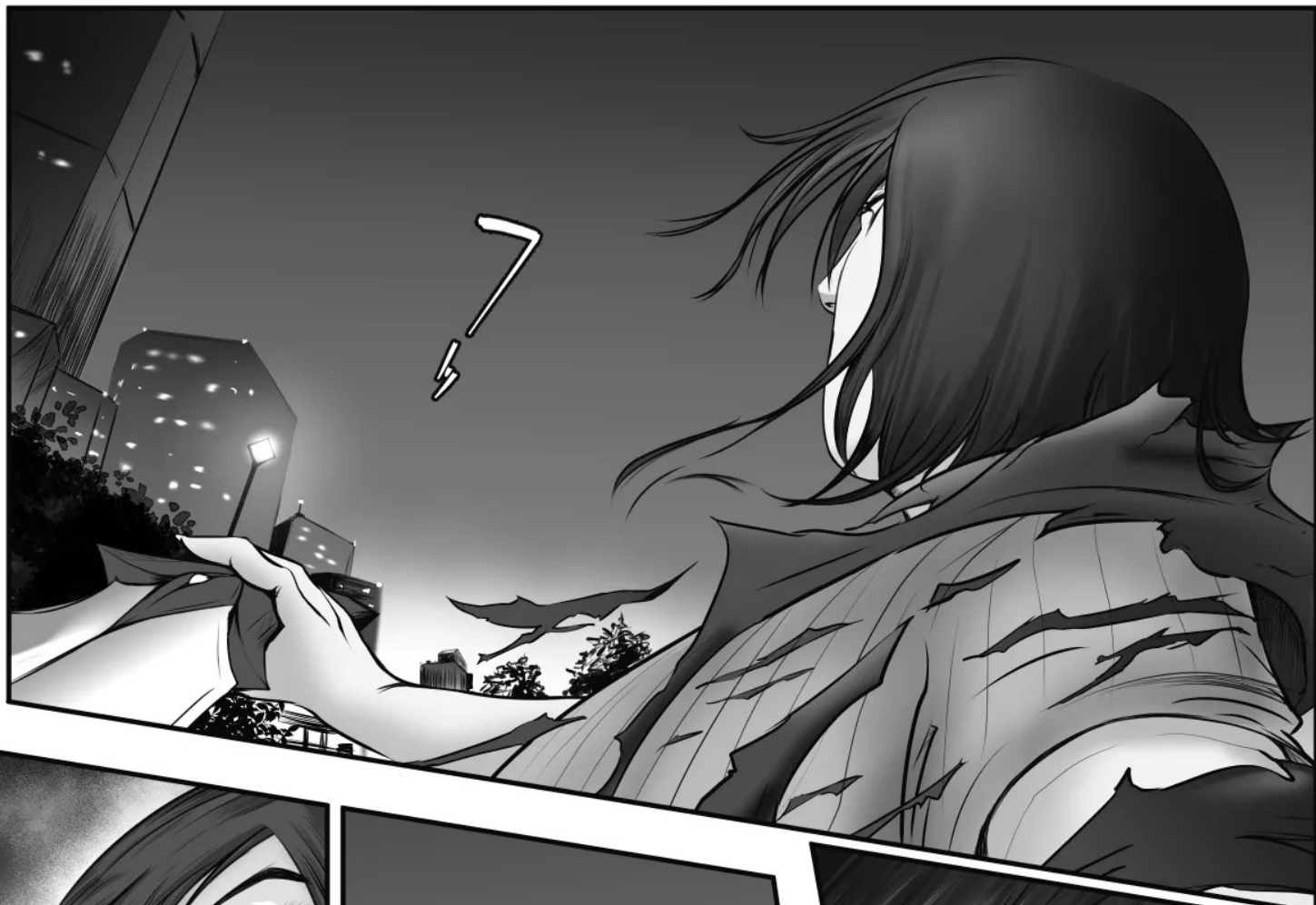
チツ！
もう伸びてる

斬魔剣バスターヘル
さすがに敵に回すと
厄介な代物ね









さて…

毒抜きで
助けられれば
良いんだけど



ハサミ



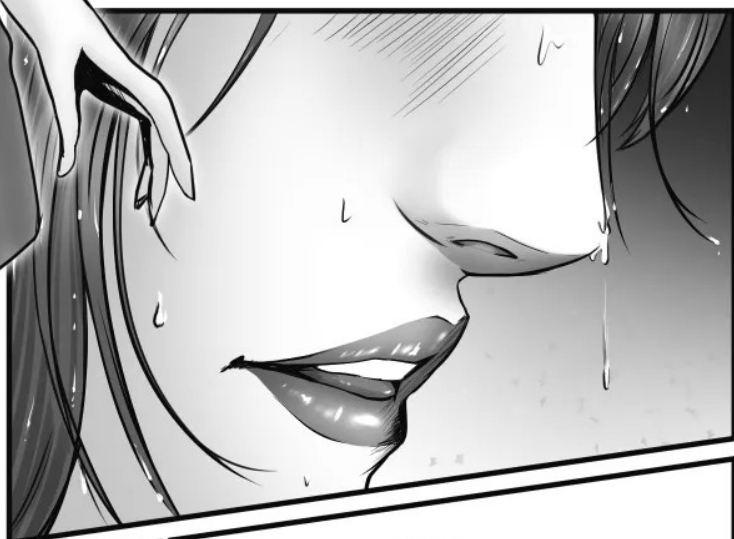
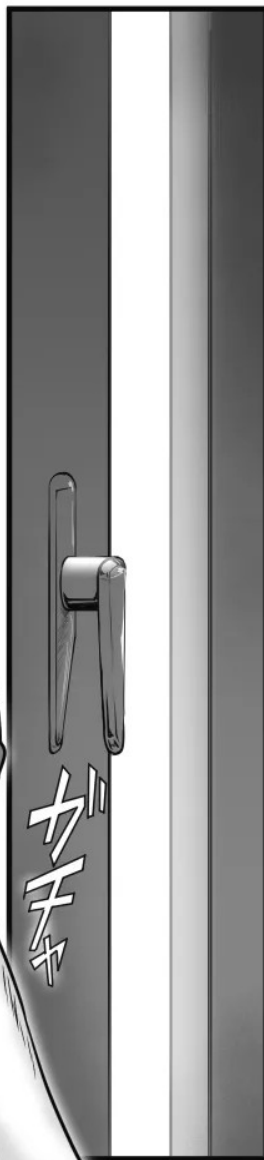
しまった!

逃げられた?!



ソム[☆]の 淫獣

復讐の女退魔師 01 絶望のその先に・・・



もしもし
彩乃さん

それよりごめんなさい
最近大きな事件の捜査が
大詰めであんなに
手が離せなくて……

それがあなたの
本業だもの
気にしないで

彰子さん
久しぶりね

彩乃さんの方はどう
例の闇門の所在
何か分かった？

しばらくだけど
大丈夫だった！

いいえ……
それが何も
ただ さつき
女妖魔と遭遇したわ

女妖魔?!
何よそれ?
そんなのもいるの？

ええっ

私の方はいたって元気
心配しないで

そう
なら良かったわ

闇門が造り出した新種か
向こう側から呼び寄せた
魔族の類だと思っうけど

いずれにしても
闇門の力が益々増幅
してる証拠だと思っうわ

そう……実はね
その闇門の件で
彩乃さんに見てもらいたい
ものがあるの



私に……
見てもらいたいもの？

これなんだけど



えっ

これって!?

間違いない!

ゲルドーラの
奴隷痕!!

彰子さん
これをどこで!

最近 連続で起こってる
婦女失踪事件の現場に
残されてる痕跡よ
以前 彩乃さんが言ってた
縄張りを示す妖魔特有の
マーキングじゃないかと思って……
やっぱりそうなの?

ええ...おそろくは

調べたいから詳細を
教えてもらえる

分かったわ
データを送っとく

でも相手はかなり狡猾な奴よ
くれぐれも気を付けてね

やっと見つけたわ
妖魔ゲルドーラ

今度こそ
絶対に逃がさない

昌也さん...
見ていてね



今度こそ必ず
あなたの仇を
打つてみせる

フッフツ バカな女

その女妖魔が
私だつたとも
知らずに

これで
よろしいでしょ
ガロン様♥

ああ 上出来だ

まんまと
引っ掛かったわ

ガロンヌ——

でも知りません
でしたわ

だから今回は
ゲルドーラ様も
慎重なのだろうが

もはや片割れの男が
いない今となつては
いくら凄腕の女退魔師と
いえど勝ち目は無からう

ゲルドーラ様とあの女の
間にそんな因縁があつて
しかも一度封印されかけた
なんて……強いはずだわ

さる



アふうウ
ですわね♥
愉しみだわあ

知ッ

ぬる

ぬる



ウおっ!?
おオオッ

しゅる

ブルッ

それにしても
冷たいもんだな
昔の仲間に

しゅる



ゲルドーラ様の前で
無様な姿をさらす
あの女の顔を見るのが

ずる



フン
どうでもいいわあ
人間のことなど

んぐッ

ぐ

ぐ



我らの敵は
排除するだけ

そうでしょ
ガロン様♥

ネえエ

そんな事より今日は
私の気が済むまで
してくれるんでしょうネ

してくれないと
許さないんだから

A1

ああつ もちろんだ
何発でも
そのスケべまんこに
ブチまけてやるよ

ニ

A1

へっ 俺もだぜえ
もうチンポが爆発しそう
今にもイッちまいそうだ

ウフフツ 嬉しいイ
嬉し過ぎて
まんこがキョンキョン
しちゃうワ

下

グ

ト

ハ

アアッぶつといのが
奥まで入ってキタあ

今日はいつも
増して大きく
感じるわあ

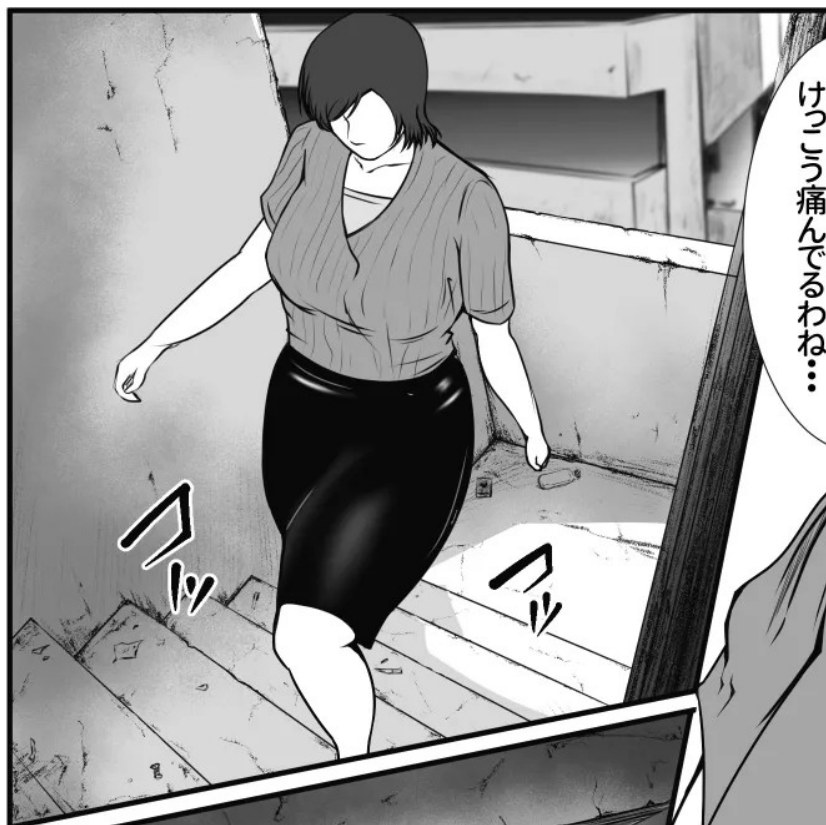
グッへッ だろう
久しぶりだからな
俺様のチンポも
はりきってやがるぜ

あはあああんっ
もう最高ですわあ
私の愛しいガロン様あ

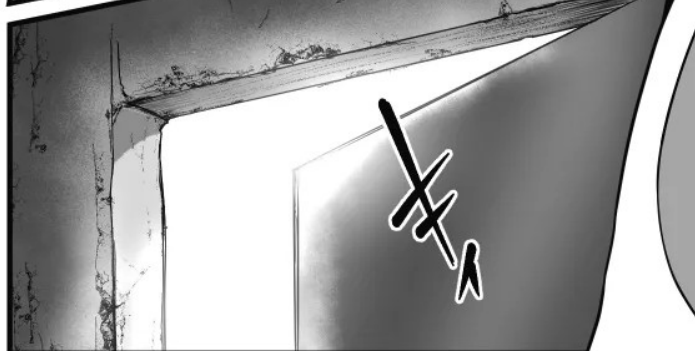
ああ俺もだせえ
可愛いガロンヌよ
お前を造って本当に
正解だったぜえ

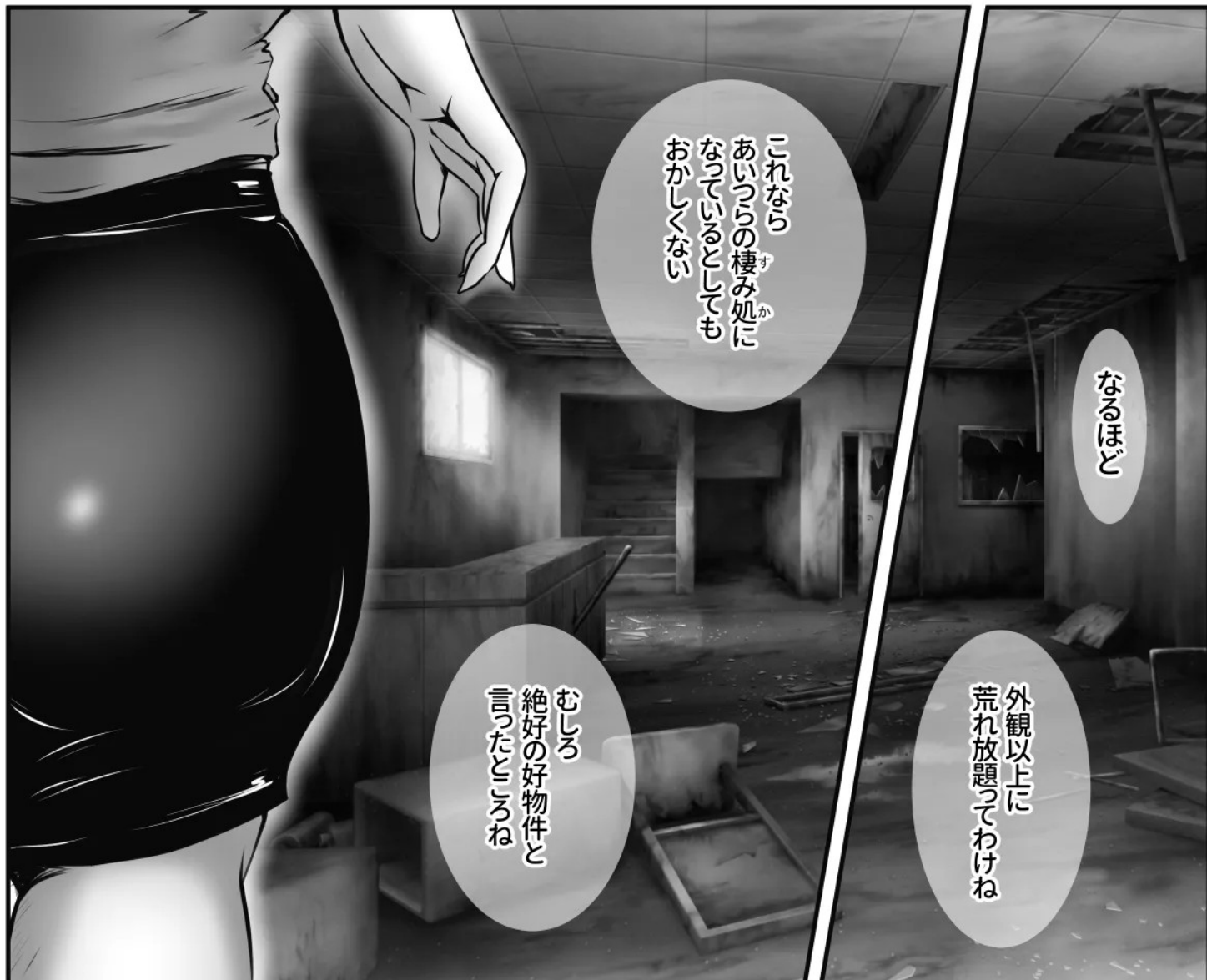


これが
彰子さんの情報にあった
元ラブホテルだったという
例の廃ビルね……



来年取り壊し予定って
聞いたけど
けつこう痛んでるわね……



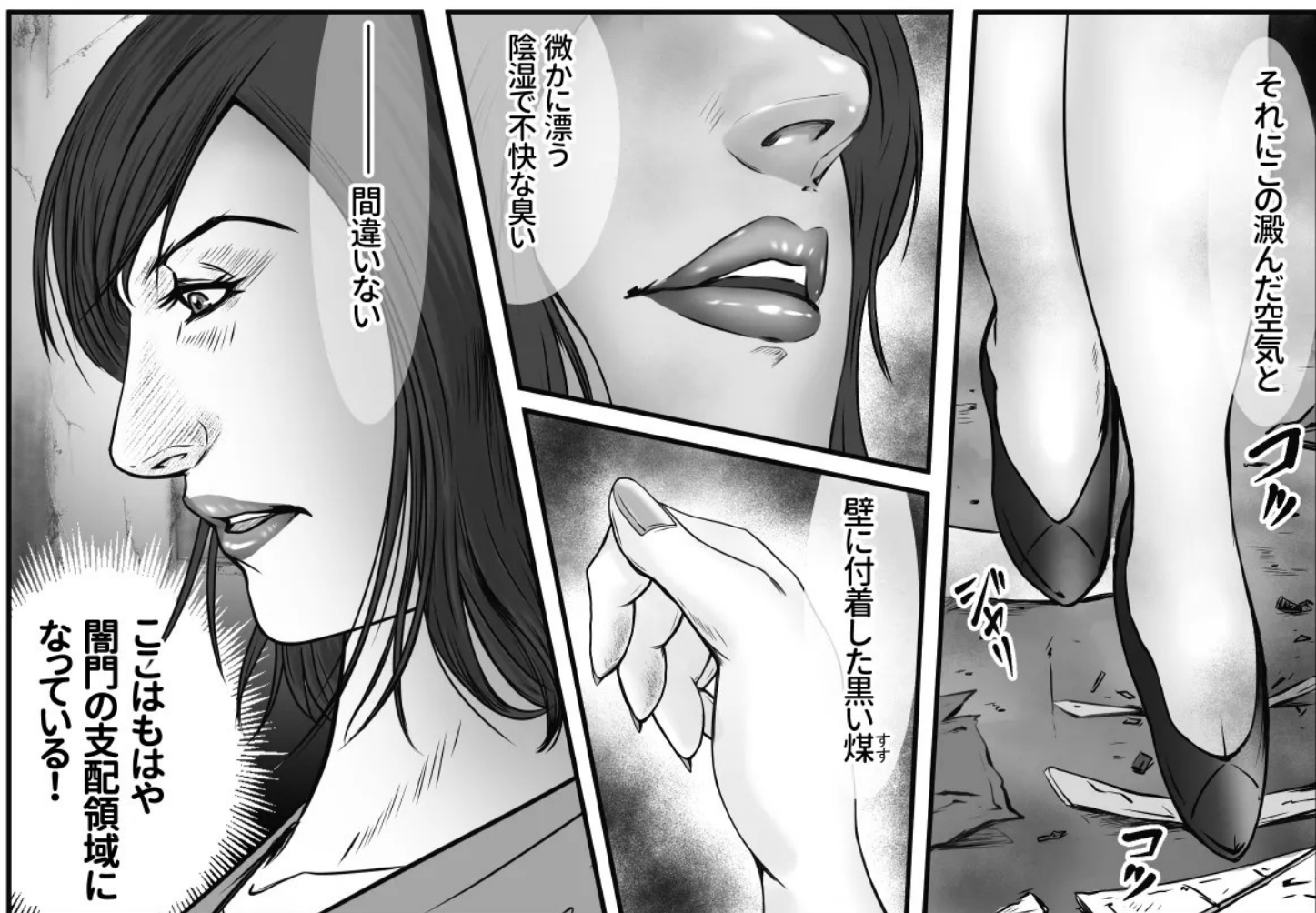


これなら
あいつらの棲み処^{すか}
になっているとしても
おかしくない

なるほど

外観以上に
荒れ放題^すってわけね

むしろ
絶好の好物件と
言ったところね



それにこの澁んだ空気と

フク

壁に付着した黒い煤^{すす}

微かに漂う
陰湿で不快な臭い

——
間違いない

——はもはや
闇門の支配領域に
なっている！

立入禁止

例の部屋は
この奥ね――

この感じだとまだ何処かに
潜んでるかもしれない

不快な臭いが
奥へ行けば行くほど
強くなる

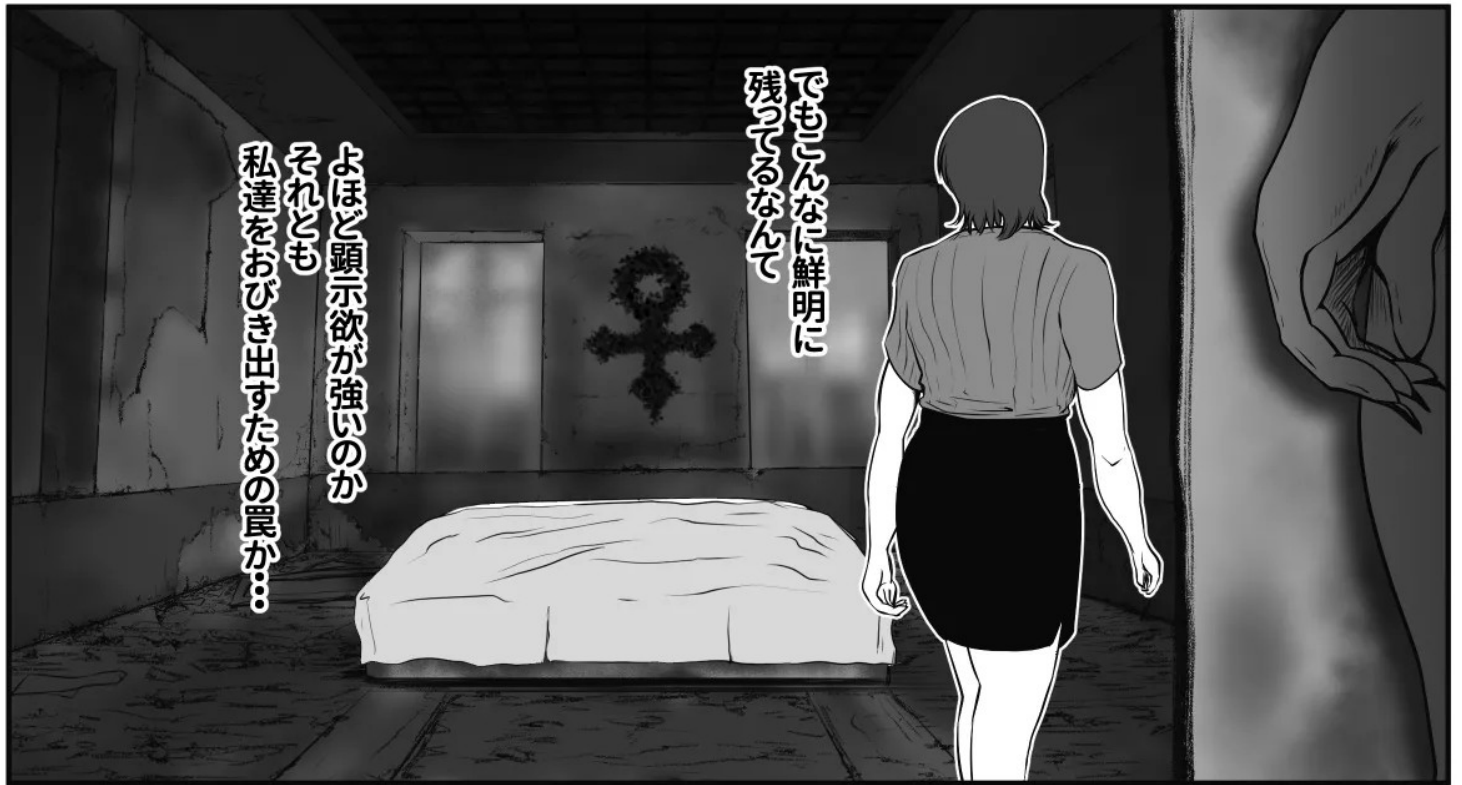
あった！

これね

縄張りを示すマーキング
ゲルドーラの奴隷痕

二度と見たくなかった
忌々しい印なのに……

またこの街で見るとに
なるなんて……
あの人が最期に残した
言葉通りになったわね



でもこんなに鮮明に残ってるなんて

よほど顕示欲が強いのか
それとも
私達をおびき出すための罠か…



グッ



もしこれが罠だとすると…





あぎゃー

くっ!

やっぱり
罠だったか...



お前を造った
“主”はどこにいる

さあこのまま
消えなくなったら
白状なさい！

その必要はない

儼なら
ここにおるぞ
神咲彩乃

ククツ
久しぶりだな

元気そうで
何よりだ

ゲルドーラ！

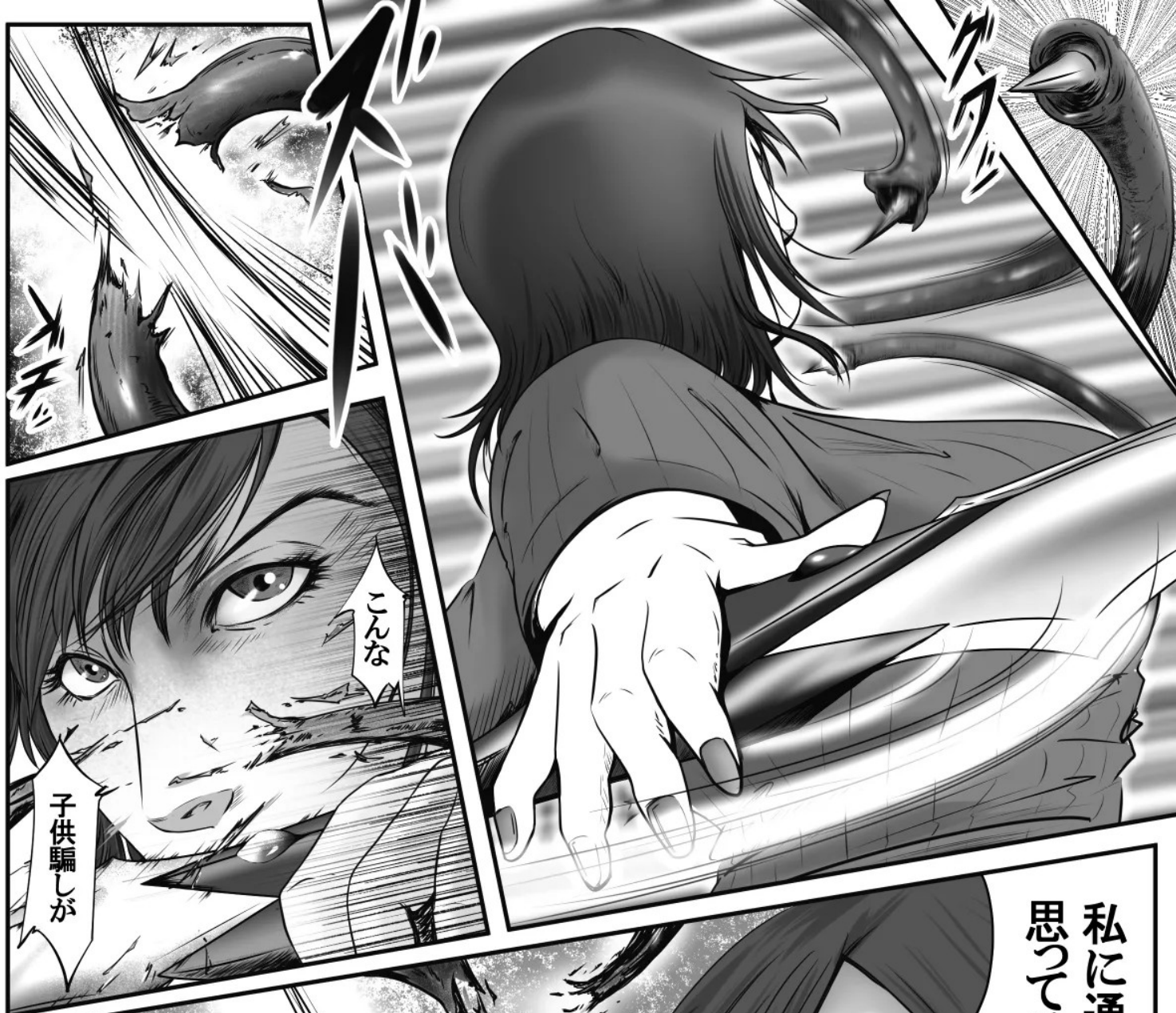
キ
ッ
マッ

今度こそ逃がさない！



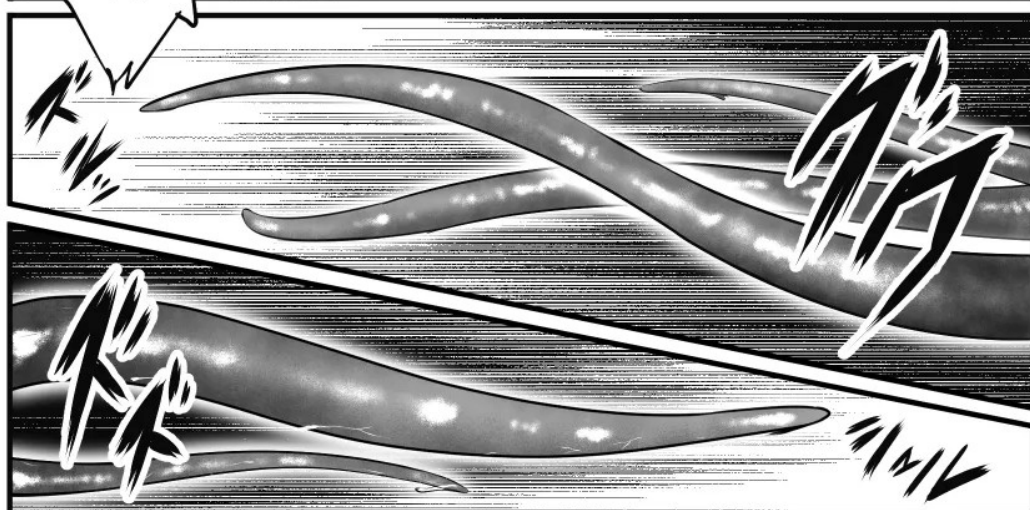






私に通用すると
思ってるの！





いや

だから
奥の手を準備して
おったのだ



グッ!?
しまった
四方から!

ぐわん

ぐわ

ぐ

ぐわ

ぐわ

ぐわ

ぐ







おふろう

おっ!?

くっ

ハッ

おおっ 実にいい味じゃ
蜜壺とは
まさにこのことよ

弄れば弄るほど
スケベなメスの味が
沁み出てきよる

くろうつ
ふざけるなう!

やめろ!

ブル

ブル

それは
我が鬼念が生み出した
念蟲ねんちゅうという代物でな

そいつは
体内に入るなり
肉に融け 血と交わり
精神すら侵しながら
お前を欲望と快楽に
満ちた闇の領域へと
導いてくれるのじゃ

ほおれ早速
効いてきただろう

かつ…躰が!?

躰が熱い

!!

そうじゃ
素直でよろしい

ならばもつと
素直になれるように
こいつをくれてやろう

ズル
ズル

ズル
ズル

これを喰らえば
すぐに復讐の事など
どうでもよくなる

やっ…やめて!

グッ

グ

A4

グ

心配するな
今からお前が得るのは
これまでの常識や考えが
一瞬でくつがえるほどの
最高の悦びだ

くるな

くるなっ!

ククツ急に
しおらしく
なりおつて

だが
もう手遅れじゃ

我が念蟲おんちゅうと
魔瘴気の毒に
侵されたその体で
この快楽にとこまで
堪えられるかの

ズ

はあ

やめっ

こんな汚いもの
私の内なかに
挿入れないで!

グ



がっ

ああっ

あっ!!

ああああっ!!



ほおれ どうじゃ

あっ!?
アウウウウ

はあああ
ちっ…違っ
絶対に違う!
誰がこんなもの
欲しいものか!

ハア…ああ…
なにげうして
こんなに…!?

やせ我慢は体に毒じゃぞ

ああ…いけない…

どんどん快感が
大きくなる…

このままじゃ
この世界に意識を
呑み込まれる…

委ねては
ダメよ!

ああ…ダメ…



ほおお
さすがに頑張るのお
大したものじゃ

だが所詮は素あがきに
過ぎぬいくら強がった
ところで結果は同じ

ああアッ
もうやめて！

それよりも ほおれ
委ねてしまえ
溺れてしまえ

こん…なつ…
いやアア！！

そうすれば
楽になる
最高の快楽が
手に入るのじゃ



こんな屈辱…

ああダメッ

これ以上されたら

おかしくなつて

ああア…
頭がボーっとしてきた

ああ…まずい…
なんとかしないぞ…

アアア
ダメ…ダメっ

感じては
ダメよ！

はあア…あつ

あはアアアア

快感だけが
どんどん大きくなる

ほおれほおれ
とうじやとうじや
燃えてきただろ
う滾ってきただろ

ああっ…私
なんて恥ずかしい声
上げてるの？

ほおれほおれ
ここにもイキスを

注入じゃ

アアア…
とめられない…

どうしても
このはしたない声を
とめられないイ——



クツクツクツ
いいではないか
おかしくなつて

そもそも
人間こそが
おかしい生き物
ではないか

それはお前とて同じ
お前の本質も
醜い欲望の塊に
過ぎぬのじや

今のお前なら
分かるであろう
自分がどうしたいか
どうなりたいか

さあ受け入れるのだ
駄目な自分を
弱い自分を

惨めでも 野蠻でも
わがままで強欲でも
それがお前なのだ
お前の本性なのだ

さあ もう楽になれ
自分を偽ることなく
淫らで賤しい
本当の自分を曝け出せ

全てを忘れて
この快楽に
その身を委ねるのだ



あつ…あアア
どうしてこんなに
頭に響くの…

バカげな戯言なのに…
頭に響くたびに…
ゾクゾクとした昂ぶりが
軀の芯から込み上げてくる

おかしいわよ…
おかしいわよ…
…なんとかしないと

クククツ
頑張りは認めるが
良い声で啼くように
なってきたのお

ハアあ…助けて…
このままじゃ…私…
本当に…いつかの
思うがままに変えられて…

そろそろ念蟲が
肉に融け 我が魔性が
沁み回ってきたようじゃ



おおお
まんこの締め付けも
烈しくなつて

摩擦汁がとんとん
溢れてきやる

もうじきじゃ

もうじきお前も
こちら側じゃ



あアア いやっ…嫌よ
こんな結末…
誰が受け入れるものか！

なのに…なににどうして
こんなに感じるの
ふらちな感情が…
どんどん溢れてくるの!!

気持ちいい…

気持ちいい…

気持ちいい

気持ちいいイ

クツクツ そろそろ
頃合いのようじやの

ほおれ！

そうだいい貌じゃ
何もかも忘れこの快楽に
溺れてしまえ

あつハア...

あつ...はアア...
ダメ...なのに...

所詮お前も
ただの人間
ただのメス

欲しかったのじやろう
この快楽が!

魂が打ち慄えるような
この肉の悦びが!

愛した男の代わりに
性欲に餓えた心を
満たしてくれる
たくましい雄が!

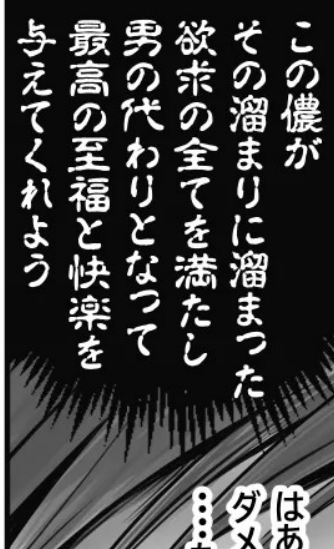
あおっ!

あつ...
ハアう!

それこそが
お前の本望

切なる願い
だったのじや

気持ち——いいッ



ああもうダメ！

耐えられないイイ

ぐうあッ

あッ

はああああアア！！

ククッ 盛大にイキおつて
とうとう根を上げおったか

他愛もない
所詮お前の復讐心など
その程度だったという事だ

これで準備は整った
一度心が折れてしまえば
もうこつちのものよ
じつくりとその肉体と精神に
闇の毒素を注ぎ込み
儂好みの食欲で賤しい
肉メスに調教してくれるわ

ククククッ！
本当の快楽は
これからじゃぞ

こうして私はゲルドーラの
圧倒的な力の前に
あっけなく屈し陥落した

そのあとはもう悪魔に
なされるがままだった

ククッそうだと
もつと曝け出せ

あッ

アッ

アッ

もうお前を
縛るものは何もない

与えられる快楽を
ただ欲望のままに
貪り尽くせ！

がッ！

アッ

あッ

あッ！

快楽をただ貪り尽くす
野蛮なケダモノなのだ

アッ

アッ

本当の自分を
浅ましき本性を

お前はケダモノだ

私は率先して快楽を受け入れ
その凄まじいばかりの肉の悦びに
何度も肢体を戦慄^{わなな}かせて
はしたない善がり声を放ち続けた

あっ…あアア…ケタモノ…
私は…快楽を貪り尽くす…

野蛮なケタモノ

ククツそうじゃ
ケタモノじゃ

あっ

さあ好きなだけ
己が欲を満たすがよい

お前は変わったのだ
もう何も考えず
ただこの闇の快楽に
痴れ狂えばいいのじゃ

癡猛に下品に
湧き上がる性欲を
剥き出しにして
思う存分快楽を
貪り尽くすのじゃ！

もはや私を陥れる
悪魔の囁きすら心地よかった
だから素直に受け入れた
口にするだけで、まるでそれ自体に
魔力が秘められているかのよう
それは脳髄に沁み込んできた

私は着実に変えられていった
もう心も体も完全に
ゲルドーラの意のままだった

あああ
いいの
いいの

ああっ奥まで...
もつと奥まで
穿り回してえ

よがればよがるほど
醜態を晒せば晒すほど
肉の感度は増し その邪悪な思想は
私の意識深くまで沁み堕ちていった

私は着実に変えられていった
もう心も体も完全に
ゲルドーラの意のままだった

あああ
いいの
いいの
オ

ああつ奥まで...
もっと奥まで
穿り回してえ〜

よがればよがるほど
醜態を晒せば晒すほど
肉の感度は増し その邪悪な思想は
私の意識深くまで沁み堕ちていった

いつしか私は狂ったように
よがり 喘ぎ 欲しがりながら
烈しく身悶えまくっていた

はああっ...あっ...
ケダモノ...ケダモノ

私は快楽を
貪り尽くす

野蛮なケダモノ!

ちようだい
ちようだい!

まさにケダモノだった
快楽に餓えた野蛮なメス獣
そのものだった

もっと
ちようだい!

いいの!
いいの!

すごく
いいの!!



二度と手放せないと思った

んヌウはああっ！

凄まじい快楽だった
最高の肉の悦びだった

もう夢中で欲した
この快樂さえ得られれば
他はどうでも良かった



はっ

はっ

あああつ！
きてえ
きてえええ

はっ

もっと奥まで
もっと烈しく

私のマンコを
穿り回してえ！

クツクツ
そうじゃ
その調子じゃ

はっ

はっ

ドッ

はっ

はっ

もっともつと欲望を
お前の本性を
剥き出しにするのじゃ



忠誠を誓いますううウ

!!

私はううて

身も心も完全に

悪魔の支配下となった





あぁあぁ
いいいいイイッ！
最高に気持ちいいッ！

あッ

ドッ

あはあぁー
イクッイク またイクッ！
またイっちゃううう！！

ドッ

あッ

ドッ

ドッ

あッ

あッ

ドッ

ククッ 実にいい貌じゃぞ
どうじゃ 震に堕ちるのも
震くはなからう

はああぁ
素敵よ素敵！
こんなに凄いなんて
こんなにイイなんて！

そして無様なイキ貌を晒す度に
お前の魂は闇に染まり
やがてはこのソドムに相応しい
凶悪な欲の塊となっていく

ドッ

我に支配され
全てを委ねることでお前は今
人間では得ることのできない
至福の絶頂を手に入れたのじゃ

あっあっあおオっ！
幸せだ私は今

最高に幸せだ！

ああああっ
なんて素敵なの
なんて素晴らしいの！

ククツそうじゃ
その幸せを
手放したくなければ
もつと堕ちるのじゃ

おオっ

オフウツ

己の猛々しい欲念を
凶々しき心の闇を滾らせ
更なる震の領域へと
堕ちていくのじゃ！

もう手放すことなんて出来ない
いや絶対到手放すものか！



この快楽のためなら
私は何でもする
何にでもなる！

人間だって
やめられる!!

クツクツクツ
良い顔じゃ
どうやらお前にも
開いたようじゃの

魔へと通じる
凶悪なる闇の扉が

あああ
ゲルドーラさま♥

これまでの無礼の数々
どうかお許し下さい

今日より私は
あなた様に全てを捧げ

心の底からあなた様への
服従と忠誠を誓います！

フツフツ よろしい
ならば変わるのじや
この僕の思うがままに

これでお前は
完全に僕のモノよ
クツクツクツクツ！

お前は僕だ！

闇の隷だ！

僕こそがお前の正義なのだ！

僕こそが
このシンドムこそが

そうそうよ
私は悪!

悪こそが
このソドムと
ゲルドーラ様こそが私の正義!



あはっ はああアッ

ゲルドーラさまあ

さあ たつぷりと
濃厚な闇の汁を受肉し

必置きなく
生まれ変わるがよい

あああ

フッフッフ
完成じゃ

ほおれ
鬼う存分喰らうのじゃ

これでお前を容易に
造り変えることができる

ただ欲望のままに――

はい

ただ欲望のままに

我が汁を肉の隅々
はらわたの奥底まで
沁み亘らせるのじゃ

そうすればお前は変わる
この儂の牝に！

このソドムの淫獣に
成り果てるのだあ！

ククツ そうじゃ
鬼う存分
吸い尽くすのじゃ





あぁっ……侵されていく

変えられていく——

別のモノに堕ちていく

でもそれが——

でも……

ドクッ

ドクッ

最高に気持ちいい！



はああアアあっ！

アオオオ





キィビツビツビツ！

はあアアっ
なんてイイ気分なおオ！





すうごく
気持ちいいわあ

あっ...アはあっ
ゲルドーラさまあ♡

ん

ん

ん

クククツ
素晴らしい
実に素晴らしい姿じゃ
あの勇ましい女退魔師が
見事にソドムの使い魔に
成り果ておったわ

神咲彩乃よ
今日よりお前は
我が忠実なる隷
ゲルミーシャとして
この僕とソドムの
ために働くのじゃ

よいな

はい
我が名は
ゲルミーシャ

全ては親愛なる主
ゲルドーラ様の
仰せのままに…ウフ

ソドムの
淫獣

復讐の女退魔師 01 絶望のその先に…

to be
continued